

政治資金残りあと

142,578円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

前回までの残高	231,633円
印刷代（ビラ印刷代）	23,911円
交通費（駐車場、燃料代）	7,073円
雑費（プリンタトナー代）	23,622円
通信費（携帯、郵便）	39,249円
会場費差額	200円
寄付（KMさん）	-5,000円
合計 00/1/3～00/2/1	89,055円

市政を考える

月刊武松

発行日
00/2/4

第9号

たけまつ ただし

頒布責任者： **武松 忠**
武松政策研究会

松永安左工門！？

こんなすごい人が小田原に住んでいた。

電力の鬼と言われた松永安左工門の居宅板橋の「老樗荘」に対し、複数の陳情ができました。

松永安左工門の人物像や功績が余りにも市民に知られていないと思います。ここに紹介させていただきます。

■ 壱岐の大事業家の長男として生まれる。

松永安左工門は、明治8年に壱岐島石田村（長崎県壱岐郡石田町）の呉服、雑貨、酒類醸造、網元、貸金業等を営む壱岐の大事業家の長男として生まれた。

■ 慶応義塾から無一文まで

明治22年、慶応義塾に入学し、その在籍中に福沢諭吉の養子桃介と知合い、終生の交友をもった。

慶応中退後、三井呉服店（三越）、日本銀行など転々としたあと、神戸に福松商会を設立したが、株式投機に失敗して無一文となる。

■ 市電から東邦電力

明治42年に再起し、桃介と組んで福岡市に福博電燈軌道（西日本鉄道の前身）を興し、北部九州の電力関係の企業を次々に吸収合併するなど、実業家としての力量を伸ばした。大正11年には東邦電力を創設した。（この間一期衆議院議員を務めている。）

■ 電力の国家統制に反対

昭和恐慌期には政府の推進する電力の国家統制構想に強く反対したが、昭和14年には日本発送電（日発）が成立して、国家管理が急速に拡大強化された昭和17年に東邦電力を解散し、関係した全事業から引退した。

■ 柳瀬から小田原へ

引退後は、埼玉県志木の柳瀬に山荘を営んで茶の湯三昧の生活を送った。昭和21年、戦後を皆と供に苦しもうと、柳瀬山荘を国宝の美術品と一緒に国立東京博物館に寄付し、小田原板橋（老樗荘）に転居した。

■ 電力の鬼

GHQの指示によって電力再編問題が起きると、昭和24年、電気事業再編成審議会会長として復活し、現在のような全国9ブロックの発送配電一貫経営の民間会社を設立する案を官民あげての猛反対（特に電力料金の66%値上げ）を押し切って推進した。

その結果、電力事業の経営の安定が図られ、海外からの資金導入を得て設備の近代化や電力安定供給に大きく貢献した。

その強引で果敢な行動力から「電力の鬼」との異名をとった。昭和46年に95歳で死去。本人の遺志により叙勲を辞退、葬儀、法号なし（小田原市火葬場で荼毘に付す。）

■ 松永耳庵

茶の湯への傾倒は還暦を迎えた昭和9年以降の事で、「耳庵」を名乗り、柳瀬山荘で茶の湯三昧の生活を送った。実業家としてのこのような闘争的で激しい半生を送った反面、戦前戦後を通して茶道に親しみ、古美術蒐集にも一段と力を注いで、昭和34年には小田原市に松永記念館を開設し、所蔵の茶道具、古美術品を広く一般に公開した。現在、その所蔵品は、福岡市美術館に所蔵されている。

なお、調査には、東京大学社会科学研究所の橘川教授の協力を得ました。

参考文献

『日本電力業の発展と松永安左工門』橘川武郎 名古屋大学出版会
『松永安左工門の生涯』小島直記 経済往来社
『電力の鬼・松永安左工門』藤村哲夫
『松永コレクション』尾崎直人 福岡市美術館

成人式！

1/10に行われた成人式に出席してきました。

式典自体は、15分程なのですが会場内は、常にガヤガヤとしていました。市長や議長のお祝いの言葉の時も、マイクの音量が小さかった不備もありますが、「聞こえな～い！」「話が長～い！」と野次が飛び交い、ステージジャック（ステージを占拠する）しようとする者が職員に制止されるなど、まるで学級崩壊の報道ビデオの様でした。他の議員は、「今年は、まだ良かった。」と話していました。

それにしても本来、小正月（1/15）に成人式、小正月前夜（1/14）にどんど焼きのはずが、安易に変えられてしまって、そのうちクリスマスも12月の第四月曜になるのでしょうか？

ホームページ開設！

<http://www2c.airnet.ne.jp/takematu/>

約半年間の懸案であったホームページの開設が、やっとできました。本人の手作りのため凝ったことはできませんが、機会がありましたら一度見て下さい。また、感想等ございましたらお寄せ下さい。

The Voice 今までに頂いたご意見から

今回は、子育てに関連したご意見をまとめました。特に窓口対応には改善余地があると思います。折角、良い設備や事業を行っていても、接客技術の未熟さが不信感を募らせてしまいます。

少子化対策？

先日、保健センターやマロニエを子育てサークルで利用しようとした際、危ないからだとか、様々な理由をつけて使用をしぶられたり、予約も入っていない隣の部屋も余計に借りなければ使わせない、もうキャンセルもできない等、無理を言われたことがありました。（窓口の上の人は、奥の方で料金を取っておけと言っていました。）

他のグループからも同様の声を聞いています。最近、親も含めてマナーが悪いことがあるため、施設側の言いたいことはわかりますが、安心してのびのび使えるところは、どこにあるのでしょうか？（公園だって犬や猫の糞で汚れています。）

子育て支援、子育てグループ作り等と市は言っていますが、気軽に使える場所がありません。

子供が汚したり、騒いだりするの当然。だからマナーを親が教えるのも当然。そして施設にはもっと配慮が欲しいと思います。和室には破れるような障子をつけないとか、子連れの予約が入ったら、その両隣は、ミーティング等で使用しない人を入れる等、ちょっとした事でお互いいやな思いをすることもなくなるのではと思います。欲を言えば子供たちがのびのび使える児童館があったらと思います。

外国は、子供でも大人でもマナーにはうるさいけれど、子連れにはとても配慮があります。どうも日本はマナーも悪いし、子連れは肩身がせまい。高齢化で、老人のために整備をしなければならないことが多いのわかりますが、これからの世の中をになう子供たちをしっかりと育てることにもっと重点をおいて欲しいと思います。それと、窓口対応で融通のきかない事務的なやり取りも多分に改善の余地があると思います。

市内在住 30代 女性

財政の節約なのでしょうか？

子供が遊ぶ場であるはずのマロニエのラッコ。天気の悪い日など、外は薄暗いのに、午前中の利用者が少ないためか、照明は一部しかつけてくれませんでした。部屋の中が暗いので、窓口と言うと11時に保母が来るまで待てとのこと、ロビーでは多くのテレビ画面をつけっぱなしにしているのにこんな事ってありますか！

市内在住 女性

子育て支援が途切れている！？

子供が4月から小学校に入学します。保育園とちがい、子供の帰宅は1:30頃と、とても早くなってしまいます。その学校には学童保育もなく、ファミリーサポートセンターにも相談していますが、近くに見てくれる方がまだ見つかっていません。子供を預かってくれるところがなくて困り、仕事もどうしようかと考えています。保育園に行っている年齢のうちはよいのですが、学童保育も不足し、まだまだ女性が仕事を続けられる体制は不十分です。もっと働きやすい環境ができればと思います。

市内在住 女性

武松政策研究会 勉強会のお知らせ

どなたでもお気軽に参加下さい。

テーマ：「都市計画法と都市景観条例について」

報告者：武松 忠

日時：2月19日（土） 18:00～20:00

場所：小田原市民会館 6階 第3多目的室

参加費：100円

出欠席の連絡は、不要です。当日、直接現地に来てください。

終了後、懇親会（実費3000円程度）を行います。

